

# 行政視察報告

総務文教委員会 7月5日～7月7日

## ■兵庫県明石市

「こども医療費の無料化とこどもの居場所（こども食堂）について」

「こどもを核としたまちづくり」を重点的に推進し、「医療費」「保育料」「おむつ」「給食費」「遊び場」の5つの無料化が特徴となっている。こども食堂は、貧困・孤食対策に限らず、全てのこどもが対象で、誰でも気軽に利用できる。事業を進める上で、こどもの目線で迅速にという点をポイントとしていて、そのために設立された「こども財団」が地域の活動団体の連携を図り、支援を行っている。この仕組みはあらゆる市民活動に応用できるものと思いました。

## ■広島県三原市

「小中高校生が参画する児童館ラフラの運営について」

児童館ラフラは、こどもがいつでも利用できる家であり、学校以外の第三の居場所として、中高生の意見を聞きながらつくられた。施設の運営についてもティーンズスタッフとして中高生がボランティアで参加している。この他にも小学生や大学生、保護者もスタッフとして参加するなど市民を運営に巻き込む仕組みができていて、児童館を1つの軸にして、多くの市民が子育てに関わり合いを持てる場所は見習いたい点であると感じました。



## ■愛知県小牧市

「こども夢・チャレンジNO.1都市宣言」に基づく取組み 親子で訪ねたくなる図書館の運営について」

多種多様で豊富な座席があり、カフェスペースが設置され飲食が可能なことなど、貸出中心の図書館を滞在型の図書館へと移行し成功している事例と感じました。こどもや親子連れの利用に配慮した設備やサービスが充実していること、スマホ利用者カードを導入するなどはじめ、あらゆる面でデジタル化も進んでおり、多くの人の利用促進につながっていると感じました。今後の図書館の環境整備を考えていく上で大変参考になるものでした。



産業厚生委員会 7月5日～7月7日

## ■香川県三豊市

「公共交通 AI シェアモビリティサービス (mobi) について」

「mobi」は、生活圏内の移動において、徒歩や自転車、マイカーに代わる新しいスタイルの「共有交通」サービスであり、利用者が定額を出し合い、通勤、通学、買い物など、必要に応じて運転手付きの車を所有するような感覚で利用できるものです。三豊市ではその他にコミュニティバス、乗合いタクシーなども導入し、mobiはその中の一つで民間の事業。アプリや電話で簡単に呼ぶことができ気軽に利用できるシステムとなっていますが、料金面や運転手不足、運営費用等の運営面での課題も大きいとのことでした。若者や高齢者の利用が多く、利便性も高く、交通空白地の解消には期待でき、参考になる取組みと感じました。

## ■香川県坂出市

「ビジネスサポートセンター事業について」

令和2年度に事業を開始、中小企業や創業希望者に対して提案解決型の支援や伴走的な実行支援を行う拠点として設置し、企業の付加価値向上に向けた取組みや市民の起業等を支援しています。

高度な専門的スキルを有する人材を活用して、既存の支援機関が不得意とする機能を補完することで、地域の中小企業や創業者の支援強化を目指しているもので、セミナーには多くの経営者の参加があり、その後の経営者同士の交流が好評とのことでした。事業全体としては、目に見える実績が出にくく、あまり成功例が無いという現状であり、厳しい状況と感じました。



## ■徳島県小松島市

「オーガニックビレッジ（有機農業）への取組みについて」

小松島市生物多様性農業推進協議会を設立し、有機物資源を活用した堆肥・肥料などにより、農産物の供給やブランド化、後継者の育成に取組み、令和5年2月にオーガニックビレッジ宣言を行い、生産、加工、流通、消費までの一貫した地域ぐるみの取組みを進め、有機農業により生産された農産物の学校給食への納入も行っています。ブランドを作る事と、後継者を育成する事は本当に難しく、全国共通の課題であり、生物多様性農業は、手間暇も掛かるし、その分値段も高くなる、その価値を消費者も理解して購入する、社会全体で変わって行かないと日本の農業は無くなる、との言葉が心に響きました。

